
強制勇者

色鉛筆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

強制勇者

【Nコード】

N2912Q

【作者名】

色鉛筆

【あらすじ】

俺が勇者の息子？

そのとうとつなカミングアウトから俺の人生は一変してしまった…
少年は世界を救うという重荷ん背負い勇者として旅立つ事に。

驚きの朝

「は？ 俺が勇者の息子……」

少年は母がはったその衝撃的な一言をきいて固まってしまう。

（…いや、ちょっと待てすこし話を整理しよう。

確か俺は朝早くに母に起こされたんだ。

それで大事な話があるからって言って、その後に「実はあなたの父さんは勇者だったの、それで王様が勇者の息子であるあなたに魔王を倒して来いって」と言っただったな。

……ダメださっぱりわからん。）

「つまりどういう事？」

「だから、あなたに魔王を倒して来いって」

全く同じ答えが聞こえた以上どうやら聞き間違いでは無さそうだ。てことは本当に俺は勇者の息子で魔王を倒しに行かなければならないって事だろうか。

「ちょっと待ってよ、だって父さんが勇者なんて一度も聞いた事ないしそれにそんな事いきなり信じろなんて……」

「当たり前じゃない一度も言ってないんだもの。それに全部本当の事よあなたの父さんは魔王と戦い自分の命と引き換えに魔王を魔界に追い返したの」

「そんな……それに仮にそれが本当だとしてもなんで僕が魔王を倒しに行かなきゃならないの？ だって僕は何の力も無いんだよ。僕に行かせるくらいなら城の兵士に行かせた方がまだ……」

「さあ、よくわからないけどその話は王が詳しくしてくれるそうよ」

「それに、母さんは僕がそんな危険な事しに行くのしんばいじゃないの」

「あら、とても名誉な事じゃない」

「そんな……」

そのあともいろいろと言ったものの母は全く取り合ってくれず、

しかたなく王の居る城に行く事になった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2912q/>

強制勇者

2011年1月26日08時02分発行